

鶏肉情勢

令和3年2月3日 更新

全農チキンフーズ(株)

項目	内容
生	1. 国内 (1) 生産・処理動向調査(一社)日本食鳥協会令和3年1月下旬実施)によると、令和2年12月の推計実績は、処理羽数66,444千羽(前年比100.6%)・処理重量202.4千ト(同101.6%)となり、前月時点の計画値と比較すると処理羽数(同101.2%)は△0.6%下回ったものの、処理重量(同100.4%)は+1.2%上回った。廃棄合計も3.73%と前年同月より0.13%下回った。 (2) 令和3年1月は処理羽数(前年比98.3%)・処理重量(同97.3%)とも前月時点の計画値(98.8%・97.8%)より若干の下方修正。2月は処理羽数(同97.2%)・処理重量(96.9%)ともに前年を下回り、前月時点の計画値(97.0%・96.9%)並みとされた。同協会の令和2年度第5回理事会(1月29日リモート開催)で生産加工部会より鳥インフルエンザの影響でひな不足が発生し、関東から関西へひなを供給、このバランス改善は3月以降になる見込み。また、冬場に多く発生する大腸菌症や増体不良は報告されてはいるが、多くはなく全体的には安定している。と報告された。
	2. 輸入 (1) 財務省令和3年1月28日発表の貿易統計によると、令和2年12月の鶏肉(原料肉)輸入量は42.71千ト(前年比95.1%)で、日本食肉輸出入協会の予測(42.30千ト)を約0.4千ト上回り、国別ではブラジルが予測を約0.6千ト下回る29.17千ト(同92.3%)、タイは逆に約1.3千ト上回る12.47千ト(同105.3%)となった。同年1-12月累計では534.99千ト(同95.0%)と前年を下回った。同協会(同年1月21日鶏肉輸入動向検討委員会:書面開催)は、1月43.30千ト(同104.0%)、2月45.80千ト(同104.3%)との予測を公表。今回コメントはないが先月の予測数値と変更がないため「動きがやや回復してきたものの、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で不透明な状況。一方、国内の鳥インフルエンザの感染拡大に伴い、タイ産ムネ肉への引合いが強まってきており、現地価格も上昇し始めている。ブラジル産についても底値は脱して緩やかな上昇基調にある。」との状況に変わりはないと思われる。 (2) 鶏肉調整品の令和2年12月輸入量は44.13千ト(前年比94.1%)と、前月より約1.4千ト増加した。国別ではタイ産が前月比約0.4千ト減少し前年比97.5%の27.35千ト、中国産は前月比約2.0千ト増加の16.25千ト(同89.3%)となった。なお、中国産は昨年4月以来の16.0千ト台で、回復の兆しが伺える。同年1-12月累計では前年比91.6%と引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で外食需要等が落ち込んでおり下回った。1月以降についても、回復の兆しがあるものの、流動的で中国国内の動向次第と思われる。
産	1. 家計消費 (1) 総務省統計局発表の家計調査報告によると、令和2年11月は、全国一世帯当たりの3畜種生鮮肉の消費(購入)数量は3,981g(前年比104.8%)、金額も6,007円(同109.7%)と、ともに前年を上回った。畜種別でみると牛肉は数量(同100.4%)・金額(同111.3%)ともに上回り、豚肉も数量(同107.6%)・金額(同109.1%)ともに上回った。鶏肉についても同様で、前月に引き続きテーブルミート等での購入が活発で数量(同103.2%)・金額(同108.9%)とも伸び率は前月並みで前年を上回った。また加工品についてはハム(同93.9%)の数量が下回ったが、ソーセージ(同105.4%)・ベーコン(同121.1%)の数量が増加した。
	2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和2年12月の食品売上高は全店ベースで前年比105.0%と上回り、生鮮3部門の売上高も全店ベースで前年比105.6%、既存店ベースでも同104.5%と上回った。畜産部門の売上高は1,352億円で全店ベース(同108.7%)、既存店ベース(同107.4%)とも前月に続き前年を上回った。「年末・正月商戦ではステーキやすき焼き用和牛など高単価商品を中心に好調とのコメントがある一方で、帰省客減少により売れ筋に大きな影響を受けた店舗もみられた。外食自粛による家庭内消費需要の堅調が続いており、月を通じ総じて好調に推移した。前年暖冬からの反動や青果の相場安を追い風に鍋用食材の引き合いが強くなり、豚肉や鶏肉が好調となった。牛肉は国産、輸入問わず好調となっている。加工肉は、家庭用は好調とのコメントが多いが、ギフトは好不調が分かれている。」と報告された。また総菜部門の売上高は全店ベース(同102.1%)・既存店ベース(同100.8%)ともに上回り、「X'マス、年末・正月商戦は大人数向けが不振も予約販売や高単価商材が好調に推移。調理疲れから弁当類にやや回復傾向がみられる店舗も。おつまみ総菜は堅調に推移。青果相場安と気温低下で、サラダ関連は不調となった店舗が多い。」と報告があった。
	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによる令和2年11月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比96.2%の4.59千トとなった。うち国内物は同94.6%の3.79千トと下回り、輸入物は同104.5%の0.80千トと上回った。同年1-11月累計では国産物は同99.7%と下回り、輸入物も同90.0%と下回り合計でも同98.0%となった。畜種問わず加工仕向肉量が減少しており1-11月合計で前年比100.3%。鶏肉加工品は一時的に減少はしたものの12月以降も引き続き家庭内需要や中食需要があり、国産原料の市況価格は高止まりしているが、中国等からの調整品輸入が減少していることを考えると国産物での製造量回復が期待できると思われる。
在	1. 令和2年(2020年)11月 (1) 推計期末在庫は国産26.43千ト(前年比92.5%・前月差△0.38千ト)、輸入品131.27千ト(同95.4%・同△2.87千ト)と合計で157.70千ト(同94.9%・同△3.25千ト)となった。前月に比べ生産量が6.43千ト減少し、輸入量も2.59千ト減少した。国産品の出回り量が生産量を若干上回ったため、国産品の在庫は微減した。輸入品も、出回り量が4.02千ト減少の48.18千ト、輸入量も2.59千ト減少し在庫も減少した。国産・輸入合計の在庫が150千ト台は令和元年(2019年)8月(156.96千ト)以来となった。
	2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構の需給予測(令和3年1月27日公表)では、令和2年12月は国内生産量が前月より増加(約16.4千ト)し、輸入量は前月比で約3.0千ト減少、出回り量については前月比で約16.8千ト増加するため期末在庫は約151.1千トと前月より約6.6千ト減少し、前年(161.80千ト)より約6.6%減少の見通しとなっている。 (2) 令和3年1月は前月比で生産量が約20.9千ト減少し、輸入量はブラジル中心に約1.0千ト増加、出回り量については約25.6千ト減少するも、期末在庫は国産・輸入品合計で約150.2千ト(前年比90.4%)と予測されている。2月は生産量が約4.3千ト減少し、逆に輸入量が約2.5千ト増加、出回り量も約1.6千ト増加するため、在庫は約4.3千ト減少の約145.9千ト(前年比87.0%)と予測されている。引き続き新型コロナウイルスおよび鳥インフルエンザ発生により需給動向に注視が必要である。
相	1. 令和3年1月動向 (1) 令和3年1月の月平均相場は、もも肉711円/kg(前月比+24円)・むね肉314円/kg(同+3円)正肉合計で1,025円/2kgと前月比で27円上回り、前年比でも141円上回った。もも肉は月初713円で始まり、乱高下を繰り返しながら月末707円と6円安となったが700円台を維持した。むね肉も、月初317円で始まり、もも肉と同傾向で月末311円の6円安となった。年明け後も量販店・生協等からの引き合いも強く、正肉合計で月平均1,000円/2kg台は平成20年(2008年)10月(もも肉677円/kg、むね肉359円/kg、合計1,036円/2kg)以来となった。
	2. 見通し (1) 気象庁発表の向こう1か月の見通しによると、令和3年2月の気温は、北日本は平年並みで、東日本・西日本・沖縄・奄美は平年より高くなるとの予報。コロナ禍のなか、冬本番で鍋物等の需要が継続することからももも肉は保合い圏内で推移し月平均700円と予測する。むね肉についても、もも肉に付随し、加工筋からの引合いも堅調ではあるが、やや下げの月平均300円と予測する。 (2) 今だ新型コロナウイルス感染が猛威を振り続け、緊急事態宣言が再度発令され、鳥インフルエンザの発生もあとを立たず、引き続き国産鶏肉の需給への影響が心配される。鶏肉生鮮相場はこの状況から引き続き強含みで高水準での推移が見込まれる。

実績

生産状況 単位:千羽、千トン、%

	R2年12月推計実績		R2年合計		R3年1月計画		R3年2月計画		R3年3月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	70,339	105.4%	764,957	102.2%	64,541	99.0%	61,846	97.8%	62,530	101.3%
処理羽数	66,444	100.6%	728,909	102.5%	58,620	98.3%	57,972	97.2%	64,631	104.5%
処理重量	202.4	101.6%	2,172.5	102.2%	174.4	97.3%	172.8	96.9%	192.5	104.1%

※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」

輸入動向 単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R2年9月	41.5	53.6	77.4	35.2	41.1	85.6	76.7	94.7	80.9	54.1	45.9
R2年10月	47.9	51.6	92.8	39.2	45.5	86.1	87.1	97.1	89.7	55.0	45.0
R2年11月	45.3	48.8	92.8	42.7	45.2	94.6	88.0	94.0	93.7	51.5	48.5
R2年12月	42.7	44.9	95.1	44.1	46.9	94.1	86.8	91.8	94.6	49.2	50.8
R2年累計	535.0	562.9	95.0	469.5	512.4	91.6	1,004.5	1,075.3	93.4	53.3	46.7

※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」、全国食鳥新聞

鶏肉の消費動向(2人以上の世帯) 単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年9月	1,401	1,343	104.3	1,327	1,242	106.8
R2年10月	1,538	1,483	103.7	1,424	1,312	108.5
R2年11月	1,498	1,452	103.2	1,425	1,309	108.9
R2年平均	1,540	1,390	110.8	1,411	1,271	111.0

※参考資料:総務省統計局HP

相場(年別・暦年) 単位:円

	もも肉	むね肉	計
H26年	626	294	920
H27年	639	336	975
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883

在庫状況(推定) 単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年8月	28.0	28.7	97.4	139.2	128.2	108.5	167.1	157.0	106.5
R2年9月	27.8	29.9	93.0	138.4	134.5	103.0	166.2	164.3	101.1
R2年10月	26.8	29.3	91.5	134.1	137.9	97.3	160.9	167.2	96.3
R2年11月	26.4	28.6	92.5	131.3	137.6	95.4	157.7	166.2	94.9

※実績参考資料:畜産日報、農畜産業振興機構

相場(月別) 単位:円、%

品名	もも肉			むね肉			正肉合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年10月	632	556	113.7	292	254	115.0	924	810	114.1
R2年11月	654	570	114.7	302	262	115.3	956	832	114.9
R2年12月	687	606	113.4	311	266	116.9	998	872	114.4
R3年1月	711	622	114.3	314	262	119.8	1025	884	116.0
R3年2月	(700)	597	117.3	(300)	253	118.6	(1000)	850	117.6
R3年3月	(690)	575	120.0	(290)	243	119.3	(980)	818	119.8
R2年平均	614	585	105.0	269	243	110.7	883	828	106.6

※()は見通し ※1-12月平均